

自己評価および外部評価結果

愛の家グループホーム流山美原

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を朝・夕の申し送り時に唱和している。その内容を実践すべく入居者様、ご家族様、地域の方々へ関わっている。	当グループホーム運営理念を朝夕の申し送り時に唱和し、管理者及び職員ともにその理念を共有し、別途定めたホームの方針に沿ったケアサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運動会、納涼祭、ゴミゼロデー等に参加している。毎日の日課の散歩では、地域の方々と挨拶を交わし日常的に交流を図っている。	自治会に加入し、運動会など地域の催しには積極的に参加している。さらにほぼ毎日の散歩を通じて、地域の人々と挨拶を交わし交流を図っている。	地域の催しには、積極的に参加し交流を図っているが、地域の人たちを事業所に招いて、意見交換などを行って地域の情報を収集し、こちらの要望も伝えるなど双方向の交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症家族の会に参加し、ホームでの支援の方法や関わり方をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	期中のホーム活動、事故も含め会議で報告し、頂いた意見をサービスの提供に活かし、質の向上に役立っている。	運営推進会議は市の担当者、民生委員、自会長、オーナー、地域包括支援センター及びユニットの代表者が参加し3ヶ月に一回開催し期間中のホーム活動報告及び参加者からの意見を聴き質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には報告の大小にかかわらず、可能な限り市の窓口に行き、担当者と直接コミュニケーションを図っている。	市町村の窓口にはグループ代表が常に訪問し、ホームの現状報告や課題の相談に乗って貰っている。また月1回傾聴ボランティアを招いて利用者のニーズの把握に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを定め、ホーム内研修により身体拘束廃止について指導している。玄関には施錠をしていない。まだできることがあるはずとの思いを第一にしている。入居者様の安全を守る為やむを得ない場合は社内規定に従っている。	玄関の施錠を含め、身体拘束は絶対にしないう信念のもと管理者、職員とも対応している。さらに、“まだ出来る事があるはず”との考えのもと、ホーム内の研修を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを定め、ホーム研修により高齢者虐待防止について指導している。日常の中で入居者様の身体観察を怠らないよう注意を払い、異常がある時は原因の追究を徹底し虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年外部研修に参加の機会を持ったが入居者様の急変対応のため参加できなかった。以前に事例が挙げたことが有り、包括支援センターに相談しご家族の支援を図った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様・ご家族様の十分な納得が得られるまで説明を行い、理解・納得いただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族向けのアンケートを行い、ご意見を把握し改善に活かしている。また3か月に1回家族会を開きご意見を求めている。	本部で毎年1回利用者の家族等へのアンケートを行い、意見や要望について把握するとともに、3か月に1回家族会を開き意見交換などとして、ニーズの把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回職員アンケートを実施し、職員の意見・要望の把握に努め、改善を図っている。また3か月1回を目処にホーム長との個人面談を行い、意見の把握につとめている。	職員の意見や要望について、年1回のアンケートを実施し、ホーム長の3か月に1回の個人面接もを行い、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場をめざし全社で各種の表彰制度を実施して個人のモチベーションの向上に取り組んでいる。またホームにおいては安心して長く働くことのできる職場を目指すことを方針のひとつにかかげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全社で資格取得支援制度を実施し職員の質の向上に寄与することを図っている。ホーム内研修の実施、外部研修の告知、研修参加費用の負担補助を行い職員の勉強の機会向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は市内グループホーム連絡部会の部会長をしており、3ヶ月に1回会合を設け他事業所との情報交換や相互見学会を行い交流を図っている。サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時アセスメント、入居後のアセスメントはもとより常に傾聴を心掛け、言葉にならない訴えに気づくことができるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時アセスメントや初期のアセスメントだけでなく、来設時には経過の報告、要望等をお聞きし関係の向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念なアセスメントによりご本人、ご家族の真のニーズの把握に努め、医療サービス・歯科サービス・マッサージサービス等に応じられる体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてその方の持っている力に気づき、してあげる介護ではなく、一緒に行う生活を心がけ、手伝っていただいたことには感謝することを大切にしながら関係の向上につとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族には報告連絡相談を怠らないように心がけ、ご家族も一緒にご本人様を支えていけるよう協力を仰ぎながら支援を進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族の意向を大切に、面会や電話のやり取り、ご家族との外出、外泊も自由な環境を作っている。毎月のホーム行事の外出外食ツアーは入居者様のご希望を取り入れている。	馴染みの人や場との関係の把握については主として、家族等から行っているが来訪者の面会や電話のやり取りなどからも行い、タイムリーな対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の思いや心情に気を配り、一人が孤立しないよう職員が調整役になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族との関係は大切にしている。相談等があればいつでも応じられる環境を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表を用いてのニーズの把握や、日々の暮らしの中からその方の思いや望みを察するように心掛けている。	一人ひとりの意向や希望は、アセスメントシート等によって把握しているが、日常のケアサービスの中でもその人の表情や態度の変化なども見逃さないよう、心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を用い、ご本人やご家族から直接情報を得るようにつとめている。またかこの生活だけでなくこれからどのように暮らして生きたいかを把握するようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録や、支援経過記録、バイタルチェック、ケアプランのモニタリング等によりユニット会議や午前午後の申送りで情報の共有を図り現状の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者の指導の下、アセスメントやモニタリングは介護スタッフが実施し、ユニット会議等で情報共有、意見交換しご家族の意見を反映しながら介護計画を作成している。	介護スタッフによるアセスメントやモニタリングを行う中での情報を各ユニット会議のなかに取り入れ、家族、本人及び必要な関係者の意見やアイデアを取り入れ、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は職員の主観ではなく、見たままそのまますべてを記録することで、ケアの実施に対する結果に気づき、改善に活かし情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて訪問リハビリやマッサージの対応、訪問美容室や移動パン店の利用も行っている。ヤクルトさんに週1回来て頂き、入居者様に買い物体験をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、地元の小中学校との交流、公民館や市内の文化会館での催し物への参加を通して暮らしに楽しみを見出していただけよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療はホーム、ご家族様、医療機関相互の同意に基づき、状態に応じて適切に必要な医療を受けられる体制を整えている。	入居者と家族の希望に沿って納得が得られたかかりつけ医との関係も支援している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に入居者様の状態をお伝えし、適切に看護や、状態により医師との連絡により必要な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの往診医の協力により、病院への紹介状や必要な情報をすぐにやり取りしている。退院時においても情報の提供を受け往診医、家族、ホームで情報を共有しホームでの生活をすむ図に行うことができる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の医療連携体制と方針を文書で説明し同意を頂いている。また、その方の状態により、ホームが出来うることを十分に説明し、往診医、訪問看護師と情報共有をはかりながら支援に取り組んでいる。	早い段階から家族の中で話し合いを重ねながら事業所の方針の説明と、出来る限りの事業所の支援体制作りに取り組んでいる	ターミナルケアの実施を目指してのとりくみを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修により、緊急時の対応や、事故発生時の対応を定期的に行っている。また消防署に依頼し、ホームにおいて普通救命講習を実施し修了している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施。内1回は夜間想定訓練を行っている。昨年は隣の高齢者専用住宅の入居者様、職員と合同で消防訓練を実施している。	毎日の散歩等の中で作り上げた地域との交流の中で災害に対する協力体制が出来ている	災害時に備え、近隣住民との日頃からの連携に向けて更に情報の共有を図る事を期待したい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の「その人らしさ」を大切に尊重をもって、プライバシーに配慮することを基本とした上で、それぞれの方々に対して個別に対応をしている。	センター方式を使い日常会話、申し送りの中で、気づいたことをユニット会議で実現可能にしている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常、入居者様と接する中でご本人の望みやしたいことを言っていただけるような声掛けや、何気ない会話の中から思いを感じ取るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者様のペースを大切にしている。職員同士のコミュニケーションを密にすることで素の変化に対応し、その人らしい暮らしができる様配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はご自身で選択して着られている。選択出来るよう支援している。また月に1回訪問美容室によりカットやパーマ、ヘアカラー等ご本人の希望に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は下ごしらえ、盛り付け、配膳、食事、食器洗い、食器整理に至るまで職員と入居者様が出来る事に応じて一緒に行っている。	ゆったり、安心して食事の出来る環境があり地域の人も参加できる施設内行事には元ブロの入居者の作る焼き鳥は人気がある	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、一日の水分摂取量を記録し一人ひとりの習慣や変化の把握につとめている。献立は管理栄養士が作成したものを基本としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずお一人お一人が口腔ケアをしていただけるよう声掛けしている。支援の必要な方には一緒にハミガキを行い個別に対応している。訪問歯科を利用し定期的に健診をしている。必要があればご家族に相談し治療している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄記録表を付けている。一人ひとりの習慣や変化を把握することで排泄をトイレでできる様に支援し、また布パンツ使用に向けた取り組みも個別に行っている。	センター方式を活用し、おむつから便座に誘導する取り組みを行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝便秘に効果のある「きなこ牛乳」を取り入れることで便秘の予防、便秘薬の減量に役立っている。便秘という生理的な障害が認知症の方にとって不安を起す要素であることを認識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人員配置の中で安全に配慮し、出来る限り希望に沿った入浴ができる様に心掛けている。曜日を定めることはしていない。	入浴時間を含めた入居者の様々な希望に添い安全を第一に対応している。自立入浴にむけての支援も進めている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切に、個々の方々の習慣や状況に配慮し、休息や安眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬一覧表をファイルし、その内容を常に確認できるようにしている。薬の管理は納品時に管理薬剤師が、毎日のセット時は介護スタッフが、投薬時は介護スタッフが2人で名前・日付と食事・内容量を目で見て声に出して確認し嚙下するまで確認している。記録にも残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の力に応じて、裁縫・毛筆・塗り絵・日記・レクにより創作物をこしらえる・お風呂上りや日常の飲酒・外食ツアーで食べたいものを食べに行く等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日個々の希望や状態に配慮の上、近所の散歩を行っている。月に1度の外出ツアーではご本人達の希望を聞いて出かけている。ご家族等との外出外泊も自由に支援している。また、ホームの食材の買出しにも一緒に出かけて手伝っていただいている。	毎日の散歩は入所者の楽しみになっている、途中地域の人に出会う事も楽しいシーンになっている。散歩を望まない人は替わりにホームの中であるく様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出ツアーにはお小遣いを持って行き買物ができる様支援している。週に1回ヤクルトさんに来設いただき協力してもらい各自のお財布で買い物体験をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアに電話を設置して、希望に応じて電話を使用していただいている。年賀状や暑中お見舞いなど時節の手紙やハガキのやり取りができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(トイレ・浴室・キッチン・リビング)は常に清潔を心がけ、不快を招かないように配慮している。レクリエーションを通じて飾り付けの創作物を一緒に作り、フロアの季節感の演出をおこなっている。	共用の空間は清潔に保たれ、入居者の川柳、創作の品々を飾り、心地よい空間として工夫している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール・廊下奥にベンチを、リビングにソファを置き、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、今までご家庭で使い慣れた家具等を活かして住み慣れた住空間を作っていただけるよう支援している。また個々の身体状況や安全等にも配慮しわかりやすく動きやすく過ごせるよう支援している。	居室は安全に配慮されたうえで、入居者の希望、好みに出来る限り沿っての部屋作りを支援している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・浴室・廊下・玄関等に手摺を設置、トイレや居室もわかりやすく目印をしている。建物内は移動を妨げるような制限を設けておらず行きたいところへいかれるように配慮している。		